

多剤耐性緑膿菌(MDRP)による院内感染症発生患者数

定義

令和6年度1年間の新規多剤耐性緑膿菌（MDRP）発生患者数です。
保菌者による持ち込み感染は除き、入院3日目以降に発生したものを計上します。

算式

実数

当院の値（調査期間）

R6年度	0 件（年間）
R5年度	1 件（年間）
R4年度	2 件（年間）
R3年度	1 件（年間）
R2年度	3 件（年間）

項目の解説

免疫力の低下した患者が多剤耐性緑膿菌（MDRP）に感染すると、難治性の感染症を引き起こし死に至る場合があります。病院内の手洗いを励行するなど、適切な院内感染予防対策の実施により、発症頻度を低減することが可能です。当該指標は、院内感染予防対策の実施とその効果を示す指標です。各病院のMDRPの検査の実施に関する取り組みにより、その結果は影響を受けることから、当該指標だけでの病院間比較は困難であることに留意する必要があります。なお、当該指標の集計に際し、対象となる菌が検査で検出されているが発症が認められていない症例については除外しています。